



FUKUOKA

「一人一人の『できる!』を増やす」(福岡県立柳河特別支援学校)



視覚障がい教育部門中学部
総合的な学習の時間「通学路点検」



病弱教育部門高等部
特別活動「運動会に向けて」(テレビ会議システム活用)



肢体不自由教育部門小学部
図画工作「新聞紙遊び」



肢体不自由教育部門中学部
体育「パラバレーン」

CONTENTS

教育の広場

誰一人取り残すことのない令和の日本型学校教育の構築に向けて
宮城教育大学 教授 安藤 明伸 …… 1

特集

令和3年度「ふくおか教育月間」記念行事 [総務企画課] …… 3
令和3年度 福岡県教育文化表彰 [総務企画課] …… 5
令和3年度 福岡県とびうめ教育表彰 [教職員課 高校教育課 義務教育課] …… 8
世界へ羽ばたけ! 女性アスリート! ~女性アスリートの育成強化を通して~ [体育スポーツ健康課] …… 11

県立学校の特色ある取組

今来そして行く未、伝統と地域に支えられ次世代のリーダーを育成する [福岡県立育徳館高等学校] …… 12
「時間割づくりは人生づくり」~生徒のキャリア形成とともに~ [福岡県立西田川高等学校] …… 14

幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐカリキュラムマネジメント

令和元・2・3年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業研究
幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの推進 [義務教育課] …… 16

福岡県教育センターの取組について

福岡県教育センター 創立50周年について [福岡県教育センター] …… 18
学校・地域の中核となる教職員を育成する令和3年度長期派遣研修について [福岡県教育センター] …… 20

スクール・ミュージアム事業(アートコース)について [福岡県立美術館] …… 22

教育施設からの事業だより [福岡県体育研究所] …… 24
令和3年度の取組

福岡県立スポーツ科学情報センターにおける「スポーツ普及促進事業(アクションフェア)」について [公益財団法人福岡県スポーツ振興センター] …… 26

お知らせ
教職員課/福岡県体育研究所/九州歴史資料館/放送大学福岡学習センター/福岡県青少年科学館 …… 28

九州歴史資料館 展示品 名選 No.53 [九州歴史資料館]

「教育福岡」はホームページ上で
見ることができます。

福岡県 検索
教育委員会 >> 総務企画課 >> 「教育福岡」をクリック

<九州ロゴマーク>
「九州の連携」を象徴し、
「九州はひとつ」を表現
しています。



PHOTO NEWS [フォトニュース]

10/28 令和3年度福岡県総合教育会議

知事と教育委員が会し、次期青少年プランの検討状況や福岡県教育大綱について意見交換がなされました。



12/16 教育長表敬訪問

八幡中央高校芸術コース（美術専攻・書道専攻）の3年生が、毎年、3年間の教育活動の集大成として卒業制作展を行っており、その代表作品を収めたカレンダーを制作しています。代表生徒2名が表敬訪問し、教育長と教育監にカレンダーを贈呈しました。



今月の表紙「元気いっぱい子どもたち」

「一人一人の『できる!』を増やす」(福岡県立柳河特別支援学校)

本校は、明治42年に「柳河訓盲院」として設立以来、112年の歴史をもち、「柳河盲学校」(大正14年～)を経て、平成22年4月からは、視覚障がい教育、肢体不自由教育、病弱教育の3教育部門を有する特別支援学校としてスタートしました。校歌(作詞・北原白秋)の中にある「心眼 心耳 心頭」を教育信条とした歴史と伝統、そして、生まれ変わり(reborn)、進化し続ける(step up)学校です。今年度は、60名(視覚障がい教育部門6名、肢体不自由教育部門53名、病弱教育部門1名)の幼児児童生徒が在籍しています。(5月1日現在)

学校グランドデザインに掲げている「一人一人の『できる!』を増やす」を真の意味で実現するために、子どもたちが「主体的に人・ものに関わること」「自分の意思・考えをもつこと」にこだわった教育活動を推進しています。特に今年度は、子どもたち一人一人の「マダラート(目標達成シート)」の作成により、「できる!」の具体化を図りながら取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の影響が続きますが、感染防止対策を徹底し、各教育部門・学部で工夫して教育活動を行っています。

誰一人取り残すことのない

令和の日本型学校教育の構築に向けて

宮城教育大学 教授 安藤 明伸



「令和の日本型学校教育」と「GIGAスクール構想」はこれからの教育推進の両輪だ。GIGAスクール構想は、児童生徒向けの1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの一体的整備というインフラ面を、そして令和の日本型教育は、

ツールとしてのICTを基盤としつつ、従前の日本型学校教育を発展させ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育面を支える車輪として位置づけられる。GIGAスクール構想は、環境面の強化であるため、物が整備されるイメージが強いかもしれない。しかし、実際はクラウドバイフォルトという、データを自分の手元に置かないという環境の導入が今回の肝とも言える。このことで従来と違う考え方が求められるようになったという実感はあるだろうか。

全国的にも、アカウントの準備、持ち帰りの準備、日常的な活用の研修などを経て現在に至っているが、一般的にICT活用の延長線上で捉えがちだ。ICT活用は、学習の基盤である情報活

用能力における「情報活用の実践力」なので、重要であることは言うまでもない。そのため、手段として「とにかく使える」ようにしなければならぬという段階は確かに必要だ。しかし、単に従来の延長上に位置づけることに危うさがある。それは「情報の科学的な理解」や「情報社会に参画する態度」について、教える側が十分認識できているか、ということだ。特に、情報活用能力にはセキュリティの観点が含まれていることが、これまで以上に重要だ。なぜならばこれまで日本の教育においては、セキュリティの文脈も情報モラルという括りで意識されているからである。「気をつけて使いましょ」「迷惑を掛けないように使いましょ」では、今や自分の情報を守り切れないだけでなく、他者まで脅威にさらすことになる。こうした従前の考え方のまま運用しようとする動きが全国的に散見され、実際に事件やトラブルも発生している。

例えば、GIGAスクール構想で整備された端末の管理・運用について、教師側の都合で行われていないだろうか。パスワードを共通にしていたり、パソコンに書いてあったりする状況は、セキュリティの観点から見れば完全にアウトだ。これがアウトであ

ることを、教師も子どもたちも気づかない事態は非常に由々しき問題である。これからの子供たちに特に付けさせたい情報活用能力は、セキュリティリスクの高い状況に遭遇したときに、「あれ、これはおかしいな、マズいぞ」と気づき、それを回避しようとする態度だ。難しいように聞こえるかもしれないが、これは、例えば、家の鍵は誰にも渡さない、薄暗い夜道は避けて通る等と同じレベルの話である。

クラウドを利用するようになると、意思決定する側のセキュリティ意識が、前時代的な知識や感覚のままではいけない。いつまでもUSBメモリでのデータのやりとりを推奨していたりするようにであれば、意思決定側の情報活用能力を疑われる。現在のクラウドバイデフォルトの考え方であれば、信頼できるクラウドサービス上で、その情報にアクセスできるユーザを個別に指定し、閲覧・編集などどのような権限を付与するのか決め、誰がアクセスしたのかが分かるように運用する方がより安全だ。これは、情報活用能力の体系表でいえば、ステップ3（小学校高学年相当）もしくはステップ4（中学校相当）の、情報を守るための方法・情報セキュリティ確保のための対策・対応相当の学習事項である。さらに、情報活用能力の体系表例のステップ2（小学校中学年相当）には、「生活の中で必要となる基本的な情報セキュリティ」が挙げられている。言うまでもなく個人認証がその1つだ。従前から使われるパスワード認証方式では、複雑で長いパスワードが良いというのが常識だった。それに加えて、最近では他のサービスと同じパスワードを使い回さないことがより重要になっている。どんなに複雑でも一度流出してしまえば、その流出

したりストを使って一瞬で不正ログインされるからだ。使用するコンピュータがインターネットに接続され、さらにSociety 5.0のキーテクノロジーでもあるIoTと言われる身の回りの「もの」までもがインターネットに接続されるようになることで、従来のものの考え方が脆弱性を生む原因になってしまう。

このように情報活用能力は、常にアップデートしていくものだという認識がなければ、本人が正しいことをしていると思いつつだまされ、知らないうちにセキュリティ上の脅威にさらされることとなる。誰一人取り残すことのない教育を実現するための土台は安全に学べる環境を提供することだ。

誰一人取り残すことのない令和の日本型学校教育の構築に向けて、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現をどうすすめるか。負担感を与えないよう「要するに従来から言われていること」と説明されることもあるだろう。昭和33（1958）年の学習指導要領でも「個人差に留意して指導し、それぞれの児童（生徒）の個性や能力をできるだけ伸ばすようにすること」と、現在同様のコンセプトが書かれている。しかし「要するに同じ」と短絡的・抽象的な解釈で留まらず、時代が変わっていることを認識して、まずは方法論を見直していこう。教師が素手で行うことが無理でも、ツールを使うことで効率的に効果を上げることができる。誰一人取り残すことのない令和の日本型学校教育の構築に向けて、教師の知識と指導観をアップデートし、ノスタルジーに引きずられないようにすることを心構えとしたい。

令和3年度「ふくおか教育月間」記念行事

総務企画課

福岡県教育委員会では、県民の皆様にご子どもたちへの教育について考えていただくことを願い、「福岡県の教育月間を定める規程」を令和2年2月に制定し、毎年11月を「ふくおか教育月間」としています。

11月14日(日)に、JR九州ホールで「ふくおか教育月間」記念行事を実施しました。当日は大変多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。

オープニングセレモニー

オープニングセレモニーとして、華道家元池坊IKENOB OYS(イケノボーイズ)による、いけばなパフォーマンスが披露されました。



いけばなパフォーマンス

表現したいいけばなは、記念行事の幕開けにふさわしい華やかな演出となりました。

記念式典

記念式典では、福岡県教育委員会挨拶として、吉田教育長が「ふくおか教育月間」の取組に込められた思いや、教育の重要性を交え挨拶いたしました。

また、ご来賓の方々を代表して、福岡県江口勝副知事、福岡県議会秋田章二議長からご祝辞をいただきました。



教育長挨拶

- ふくおか教育月間 イメージキャラクター「ミライル」
- これから社会に羽ばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です。



11月はふくおか教育月間

記念講演

記念講演では、池谷裕二教授に講演いただきました。

池谷教授の講演では、「楽しくご機嫌に生きる」をすぐに実践してみたくなる、脳の仕組みに関する興味深いお話や、子どもたちの好奇心と適応力で将来の可能性が無限に広がることなど、これからの時代を生きる子どもたちと、その子どもたちの未来をつくる我々大人への貴重なメッセージをいただきました。



池谷教授の講演

東京大学薬学部教授 池谷 裕二 氏

1970年生まれ。1998年に東京大学にて薬学博士号を取得。2002～2005年にコロンビア大学に留学をはさみ、2014年より現職。専門分野は大脳生理学。とくに海馬の研究を通じて、脳の健康について探究。文部科学大臣表彰 若手科学者賞(2008年)、日本学術振興会賞(2013年)、日本学士院学術奨励賞(2013年)などを受賞。著書に『海馬』『記憶力を強くする』『進化しすぎた脳』などがある。

児童生徒発表表

児童生徒発表表では、福岡県立明善高等学校オーケストラ部と福岡県立久留米聴覚特別支援学校によるボディパーカッションのステージ発表を行い、各学校による日頃の活動成果を発表していただきました。

明善高等学校オーケストラ部の発表では、43人の生徒による迫力のある演奏が披露され、行事参加者に元気と感動を与えてくれました。



明善高等学校生徒発表

久留米聴覚特別支援学校のボディパーカッションの発表では、19人の児童生徒が一体となり、全身を使って音楽を表現する演奏が披露され、行事参加者と一緒に演奏するなど会場が一体となり明るく盛り上げてくれました。



久留米聴覚特別支援学校児童生徒発表

また、会場ロビーにおいて、福岡県立八幡中央高等学校造形芸術コース、九州産業大学付属九州高等学校造形芸術科、筑陽学園高等学校デザイン科による優れた芸術作品の展示を行い、多くの来場者が足を止めて鑑賞し、たくさんの好評の声をいただきました。

各学校による作品展示



令和3年度 福岡県教育文化表彰

総務企画課

福岡県教育委員会では、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に貢献し、その功績が特に顕著と認められる個人、団体及び学校その他の教育機関について業績を表彰し、本県教育の振興に資することを目的として、「教育文化表彰」を実施しています。

今年度は、個人40件、団体20件、計60件の受賞を決定しました。(受賞者・団体名は次ページのとおり。)

また、表彰式を11月14日(日)にJ R九州ホールで行い、受賞者には表彰状と記念品を贈呈しました。



教育委員会あいさつ

○特色ある受賞者(個人)

・八女市立八幡小学校 松本 翔海
第4回及び第5回全日本BMXフリースタイル選手権大会ボーイズ10-12において優勝している。

・福岡県立小郡高等学校 高野 頌吾
メルボルン車いすテニスオープン2020及び2019年ニューサウスウェールズ車いすテニスオープンにおいて優勝している。

○特色ある受賞者(団体)

・福岡県立太宰府高等学校書道部
第64回全国学芸サイエンスコンクール
アート分野書道部門「大日本印刷学校特別奨励賞」を受賞している。



太宰府高校

○受賞者代表あいさつ

受賞者を代表して福岡県立小郡高等学校の高野頌吾さんが「熱心に指導してくださったコーチやサポートしてくださったスタッフの皆様、支えてくれた家族、友人、そして応援してくださる皆様のおかげだと思っています。たくさんの方々の心のもったお言葉や、いつも見守ってくださる温かいまなざしに励まされ努力し続けることができました。受賞者一同、支えてくださった方々に心から感謝しています。」と述べました。



受賞者代表あいさつ

○「児童生徒の部」(個人)

北九州市立横代小学校 智原 唯奈
福岡市立原西小学校 山口 湧人
福岡市立百道中学校 島田 有吾
久留米大学附設高等学校 糸永 泰樹
久留米大学附設高等学校 楠元 康生
福岡県立三池高等学校 後藤 彩季
明治学園高等学校 目 淑乃
八女市立八幡小学校 松本 翔海
敬 愛 中 学 校 本 田 里 來
福岡市立能古中学校 松原 尊
福岡県立小郡高等学校 高野 頌吾
東福岡高等学校 原 空輝

○「児童生徒の部」(団体)

福岡県立太宰府高等学校
書道部

敬愛中学校
柔道部

福岡市立西福岡中学校
男子バスケットボール部
福岡県立玄界高等学校
フエンシング部
中村学園女子高等学校
剣道部
福岡県立柏陵高等学校
男子アーチェリー部
東福岡高等学校
バレーボール部
東福岡高等学校
ラグビーフットボール部
東福岡高等学校
陸上競技部
福岡大学附属若葉高等学校
ダンス部

○「一般の部」社会教育部門(個人)

福岡県公立高等学校
PTA連合会 前会長 中島 克美

読書ボランティア 峰 惠

○「一般の部」社会教育部門(団体)

朝倉市立甘木中学校PTA
豊前市立宇島小学校PTA
かすや子育て研究会かぶとむし
築上町立椎田小学校PTA
福岡市立高取小学校父母教師会
朝倉市立福田小学校父母教師会
福岡県立三池工業高等学校PTA

○「一般の部」学術・文化部門(個人)

志免町文化財保護審議会
副会長 石瀧 豊美
福岡県文化財保護審議会
委員 坂上 康俊
福智町文化財専門委員会
元委員長 福田 昌
福岡県文化財保護指導委員
山本 浩一郎

○「一般の部」学校保健部門（個人）

公益社団法人北九州市医師会

学校医 白石 公彦

一般社団法人福岡市医師会

学校医 山田 栄一

一般社団法人北九州市歯科医師会

学校歯科医 秋満 忠啓

一般社団法人北九州市歯科医師会

学校歯科医 白石 輝久

一般社団法人大牟田歯科医師会

学校歯科医 平山 尚司

公益社団法人八幡薬剤師会

学校薬剤師 井上 宣士

一般社団法人若松薬剤師会

学校薬剤師 岡本 尚之

一般社団法人福岡市薬剤師会

学校薬剤師 福岡 英樹

○「一般の部」教育行政部門（個人）

苅田町教育委員会

元委員 石邊 節雄

筑紫野市教育委員会

元委員長 近本 明

香春町教育委員会

前教育長 林 忠良

朝倉市教育委員会

前教育長 宮崎 成光

大牟田市教育委員会

前教育長 安田 昌則

広川町教育委員会

前教育長 吉住 政子

大野城市教育委員会

前教育長 吉富 修

○「一般の部」学校教育部門（個人）

北九州市立霧丘小学校

前校長 陰平 実

篠栗町立篠栗北中学校

前校長 橋口 公一

大野城市立大利中学校

前校長 堀田 徹

福岡県立宇美商業高等学校

校長 大久保 光幸

福岡県立伝習館高等学校

校長 葉玉 千賀子

福岡県立鞍手高等学校

校長 原田 幸蔵

福岡県立八幡南高等学校

校長 堀田 義高

○「一般の部」学校教育部門（団体）

久山町立久原小学校

福津市立津屋崎中学校

福岡県立古賀特別支援学校



集合写真

令和3年度 福岡県とびうめ教育表彰

教職員課・高校教育課・義務教育課

本表彰は、県内教職員の優れた教育活動に対し、その努力をたたえ、更なる教育の振興を図るため、次の4部門を合同して、平成27年度から実施しています。

1 表彰の種類（部門）と目的

(1) 福岡県公立学校優秀教職員表彰

日々の授業や生徒指導等に優れた能力を発揮し、学校運営等に大きな成果を上げている教職員を顕彰することで、広く教職員の意欲及び資質能力の向上を図ることを目的としています。

(2) 福岡県公立学校教育マイスター表彰

特定分野や領域において優れた指導力と専門性を有し、効果的な実践をしている教職員を「ふくおか教育マイスター」として認定し、その技術や知恵を若手職員に伝承することを目的とします。

(3) ふくおか教育論文表彰

教育課題の解決に取り組んだ教育実践に関する論文を募集することで、教育関係者の意欲喚起及び人材の育成を図るとともに、優れた教育実践の普及を図り、県下の教育活動の充実に資することを目的としています。

(4) 福岡県公立学校優秀校表彰

学校の特徴ある教育活動を顕彰することを目的としています。県立学校部門は学校経営、教育実践、キャリア教育、生徒指導の4つの部門から成り、市町村立学校部門では確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、障がいのある児童生徒の自立や社会参加、信頼される学校づくりの5つの観点で募集しています。

2 表彰（各部門）（※順不同・敬称略）

福岡県公立学校優秀教職員表彰33名、福岡県公立学校教育マイスター表彰20名、ふくおか教育論文表彰34名、福岡県公立学校優秀校表彰10校が受賞されます。皆様の教育に対する熱意と実績が、学校組織に活力をもたらし、本県全体の教育力の向上につながることを期待しています。

福岡県公立学校優秀教職員表彰部門

令和3年度の被表彰者は、次の33名です。

〔市町村立学校（小学校⑥・中学校⑦）〕

大野城市立平野中学校	主幹教諭	竹井	直也
宗像市立自由ヶ丘小学校	栄養教諭	古田	由幾子
宗像市立河東中学校	主幹教諭	大庭	玄一郎
古賀市立小野小学校	主幹教諭	羽田野	紀子
糸島市立引津小学校	主幹教諭	井上	聡子
須恵町立須恵第一小学校	主幹教諭	白濱	美鈴

新宮町立新宮小学校 養護教諭 藤本 香織
新宮町立新宮中学校 主幹教諭 重富 かおり

久山町立久山中学校 主幹教諭 末永 誠二

中間市立中間北小学校 主幹教諭 三牧 岳

遠賀町立浅木小学校 主幹教諭 島田 猛

久留米市立安武小学校 主幹教諭 内田 良一

久留米市立宮ノ陣中学校 主幹教諭 深野 優美里

朝倉市立秋月小学校 主幹教諭 井上 徳巧

筑前町立中牟田小学校 主幹教諭 嶋井 加寿江

大牟田市立みなと小学校 主幹教諭 下地 徹

柳川市立柳河小学校 主幹教諭 金子 明美

みやま市立桜舞館小学校 教諭 久良木 利佳

飯塚市立庄内小学校 主幹教諭 塩川 睦美

飯塚市立筑穂中学校 主幹教諭 芝田 博志

田川市立伊田小学校 主幹教諭 満倉 圭

豊前市立八屋小学校 主幹教諭 小村 勝

苅田町立苅田中学校 主幹教諭 神崎 奈保

〔県立学校（高等学校）⑧・特別支援学校②〕

京都高等学校 主幹教諭 松野 茂

中間高等学校 主幹教諭 清本 貴史

須恵高等学校 主幹教諭 俵 孝太郎

福岡中央高等学校 主幹教諭 高橋 昌弘

城南高等学校 主幹教諭 金 志保

修猷館高等学校 事務次長 田牧 宏文

八女高等学校 主幹教諭 松藤 稔

鞍手高等学校 教諭 中山 英治

築城特別支援学校 主幹教諭 大中 正和

太宰府特別支援学校 主幹教諭 手島 恵津子

福岡県公立学校教育マイスター表彰部門

ふくおか教育マイスターは2年間にわたり、本県全体の教育の質の向上のため、所属校はもとより、他校の教職員等に対する教育相談や公開授業など、実技指導の活動等を行います。令和3年度の被表彰者は、次の20名です。

〔市町村立学校（小学校⑫・中学校③）〕

《教科指導》

春日市立大谷小学校 教諭 福田 由美子

飯塚市立飯塚鎮西中学校 教諭 宮崎 由美江

《生徒指導》

宇美町立桜原小学校 教諭 永田 ゆみ子

粕屋町立仲原小学校 養護教諭 関 亜希子

《特別支援教育》

糸島市立可也小学校 教諭 濱本 薫

《学級経営》

糸島市立長糸小学校 教諭 北口 徹一

岡垣町立海老津小学校 教諭 石原 卓

遠賀町立島門小学校 教諭 重石 瑞枝

みやま市立桜舞館小学校 教諭 西山 真理

みやま市立大江小学校 教諭 小森田幸栄子

飯塚市立庄内小学校 教諭 井上 久美

《保健室経営》

古賀市立古賀東中学校 養護教諭 北野 千鶴

《人権教育》

古賀市立舞の里小学校 教諭 野嶋 純子

《健康教育》

朝倉市立甘木小学校 養護教諭 田邊 さおり

朝倉市立杷木中学校 養護教諭 上原 舞

〔県立学校（高等学校）③・特別支援学校②〕

《教科指導》

福岡工業高等学校 主任実習助手 池田 雅弥

北筑高等学校 教諭 田吹 由美

築城特別支援学校 教諭 山本 めぐみ

《部活動指導》

伝習館高等学校 教諭 木庭 慎治

《教育相談》

太宰府特別支援学校 教諭 尾崎 敬子

ふくおか教育論文表彰部門

〔本年度の応募状況〕

本年度も、職歴3年以下の「若年の部」、4年以上の「一般の部」の2部門で募集を行い、応募総数は239点でした。応募者のうち、職歴3年以下が全体の約31%、5年以下を含めると全体の約77%になり、若年教員の積極的な応募が見られます。

教育論文を書くことは、これまでの自分の実践を振り返り、自分で気付かなかった価値や課題を見出し、更なる教育実践の充実につながります。今後も積極的な応募を期待します。

〔受賞作品（優良賞以上）〕

〈一般の部（小学校⑦・中学校①）〉

【優秀賞】			
主題	所属	職名	氏名
学級担任の外国語活動の授業力向上を目指して	うきは市立御幸小学校	指導教諭	宮崎 有沙
【優良賞】			
主題	所属	職名	氏名
科学的に探究する子供を育成する理科学習指導	筑紫野市立原田小学校	教諭	橘 穂乃果
自己の学習を調整する力を身に付けた生徒を育む数学科学習指導法	糸島市立前原中学校	主幹教諭	吉田 将康
音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽を工夫するよさを味わう子供を育てる音楽科学習指導	遠賀町立島門小学校	教諭	米盛 夏海
子供の「考えの形成」を支える第6学年国語科文学的文章の学習指導	遠賀町立浅木小学校	教諭	西住 秀一郎
災害による危険を予測し、積極的に命を守る行動をする子供を育てる防災教育	うきは市立吉井小学校	教諭	鶴本 健
算数の学びの楽しさを味わう子どもを育てる算数科学習指導	大川市立大川小学校	教諭	石橋 克基
自己を見つめ、道徳的実践意欲を高める道徳科学習指導	大任町立今任小学校	教諭	木下 直哉

【最優秀賞】			
主題	所属	職名	氏名
道徳的価値に向き合う子どもを育てる道徳科学習指導	うきは市立山春小学校	教諭	矢野 粽子
【優秀賞】			
主題	所属	職名	氏名
自ら運動を創造し動きを高める子どもを育てる高学年体育科学習指導	春日市立春日東小学校	教諭	山城 大祐
自他の良さに目を向け、互いを尊重し合う子どもを育てる学級活動の一方法	柳川市立豊原小学校	教諭	安本 遥
【優良賞】			
主題	所属	職名	氏名
自ら曲の特徴に気付き、思いや意図をもって歌う児童を育てる歌唱指導	古賀市立舞の里小学校	教諭	颯川 祥子
主体的に学ぶ児童の育成を目指した体育科学習指導	直方市立下境小学校	教諭	下元 雅也
論理的思考力を働かせて読む子どもを育てる高学年国語科説明的文章の学習指導	筑後市立羽犬塚小学校	教諭	縄田 彩和子
主体的にコミュニケーションを図る子どもを育てる外国語科学習指導	筑後市立古川小学校	教諭	福島 巧大

〈若年の部（小学校⑦）〉

福岡県公立学校優秀校表彰部門

〔県立学校（高等学校④・特別支援学校①）〕

古賀特別支援学校（教育実践部門）
 八幡高等学校（学校経営部門）
 小倉高等学校（教育実践部門）
 東筑高等学校（教育実践部門）
 稲築志耕館高等学校（キャリア教育部門）

〔市町村立学校（小学校⑤）〕

古賀市立小野小学校（健やかな体）
 新宮町立立花小学校（学校経営）
 うきは市立千年小学校（確かな学力）
 広川町立下広川小学校（確かな学力）
 行橋市立稗田小学校（豊かな心）

【各表彰部門 担当窓口】

〔福岡県公立学校優秀教職員表彰部門〕

教職員課管理免許係
 TEL092-643-3894

〔福岡県公立学校教育マイスター表彰部門〕

教職員課県立学校係・市町村立学校係
 TEL092-643-3893 TEL092-643-3892

〔ふくおか教育論文表彰部門〕

義務教育課指導班
 TEL092-643-3910

〔福岡県公立学校優秀校表彰部門〕

高校教育課指導班（県立学校）
 TEL092-643-3905
 義務教育課指導班（市町村立学校）
 TEL092-643-3910

※ 表彰式はオンラインで配信予定

世界へ羽ばたけ！女性アスリート！ 女性アスリートの育成強化を通して

体育スポーツ健康課

はじめに

本年度、延期となっていた東京2020オリンピック競技大会（以下、東京オリンピック）が開催され、本県ゆかりの選手41名が出場を果たし、そこで活躍する姿は多くの県民に夢や感動を与えました。

その中で、出場した19名の女性アスリートの活躍は目覚ましく、多くのメダルを獲得するなど世界の舞台で活躍されました。ここでは、そのような本県ゆかりの女性アスリートを支援する事業について紹介します。

1 「国の動き」について

平成23年に制定されたスポーツ基本法に基づいて策定されたスポーツ基本計画において、女性がスポーツに参画しやすい環境を整備するとともに、女性トップアスリートの競技力向上などの政策目標が明示されました。

さらに、本県競技力の指標となる国民体育大会においても、日本スポーツ協会が女性アスリートのさらなる発掘・育成を促進するため、女性アスリートの参加競技拡充を決定しました。

2 「本県の現状と課題」について

本県の中・高校生女子の運動部活動加入率は

男子に比べて低位であるとともに、女性のスポーツ実施率も同様の現状があり、スポーツ立県福岡を実現させていく上で、女性のスポーツ活動を推進していくことが重要な課題の一つであると認識しています。

3 「主な取組」について

このような現状を受け、平成27年度より、本県では女性がスポーツに触れる機会の充実と女性アスリートの育成強化を目的とし、国民体育大会において順次導入された女子新種目を支援対象として女性アスリートの育成強化事業を始めました。

事業内容は、女性アスリートの遠征合宿や主要大会参加に係る経費補助をはじめ、トレーニング環境の充実を目的とした強化拠点整備、国内トップレベルの女性アスリートの招聘、本県女性アスリート指導者の育成など、様々な取組を行っています。

4 「事業の成果」について

事業開始の平成27年度以降、国民体育大会において女子総合成績8位入賞や女子新種目合計獲得点2年連続1位などの成果が出ています。

さらに、本年開催された東京オリンピックにおいて、本事業で支援された女子ラグビー選手

が出場するなど、世界の舞台で活躍するトップアスリートを輩出することができました。

おわりに

SDGsで定められた目標のひとつに「ジェンダー平等」があります。東京オリンピックでは、初めて男女の参加選手がほぼ同数となるなど、スポーツ界がジェンダー平等を牽引しています。

本県においても、本事業を通して今後、更に女性がスポーツに触れる機会を充実させるとともに、世界へ羽ばたく女性アスリートの育成強化に努めてまいります。



【H29愛媛国体で優勝した本県女子ラグビー選手】
東京オリンピックに出場した
梶木真凜選手（前列中央）と永田花菜選手（後列右端）



【北海道での強化試合】
女性アスリート遠征合宿事業で
活躍する梶木真凜選手（中央）

今来そして行く末、伝統と地域に支えられ 次世代のリーダーを育成する

福岡県立育徳館高等学校



はじめに

京都郡みやこ町（旧豊津町）にある育徳館高等学校は、小倉小笠原藩が開いた藩校思永齋から続く、創立263年を迎える県下で最も伝統のある高校です。

明治初期、多くの藩校が廃校となる中、旧小倉藩士の教育に対する情熱により途絶えることなく思永館、育徳館、育徳学校、旧制豊津中学、豊津高校へと継承されてきました。そして平成19年度からは、福岡県初の中高一貫教育校、育徳館中学校・高等学校となり、現在に至っています。伝統の中で培われた「文武両道」「質実剛健」の校風は学校の立地する錦原の丘にちなんで「錦陵魂」と表現され、生徒の粘り強い努力を支える心の支柱として現在まで受け継がれています。

最近では、福岡県全域から入学する育徳館中学校からの進学者と、近隣市町村の中学校からの

入学者が、学習面はもちろん部活動や生徒会活動において切磋琢磨することが新たな伝統になりつつあります。

1 充実した教育活動

本校は歴史と伝統を礎に、進取の気あふれ、めまぐるしく変わる社会環境の中で逞しく生き抜く、知・徳・体のバランスのとれたリーダーを育成することを教育目標としています。そのため、広く世界に視野を広げ、自分の可能性を見出すための教育活動が充実しています。

(1) 課題研究「育徳プラン」

「育徳プラン」とは希望する進路先と関連がある分野から課題を設定し、調査や実験を通して研究・発表するものです。

2年生から「育徳プラン」に取り組み、課題

研究を行います。生徒は文献研究や実験、フィールドワークなどを通して調査・分析・考

察を行い、研究論文にまとめ発表しています。研究内容については分野別に大学の教員から直接助言を受け、自身の興味・関心を一層高め、大学の学問へのつながりを実感します。そのことが、卒業後の進路を具体的に考える契機となっています。

(2) 海外修学旅行と英語力の育成

グローバル社会を生き抜く豊かな国際感覚を身に付けた人材の育成と、生きた英語力の向上を目指し、シンガポールとマレーシアへの海外修学旅行を2年次に実施しています。現地では生徒が数人ずつに分かれホー



修学旅行

ムステイし、民族衣装や食事など様々な異文化を体験するほか、現地大学生を交え、英語でコミュニケーションを取りながら、生徒が考えたプランで班別観光を行います。さらに現地産業の視察や、日系商社で活躍する日本人社員との意見交流も行います。

海外修学旅行は、生徒が海外に視野を広げるときつかけとなっており、海外の大学に進学する生徒を送り出すなど大きな成果につながっています。

また、海外修学旅行を通して、生徒は語学力の大切さを再認識します。英語力を持った生徒の育成は本校の教育目標の一つであり、全校生徒が受験する実用英語技能検定に対しては、徹底した指導を行っています。

(3)同窓会支援による東京研修、奨学金

本校同窓会の支援により、生徒は、同窓生が勤務する企業や省庁を訪ねています。これまでユニセフハウス、カナダ大使館、気象庁、警視庁、TBS放送センター、NEC本社、東京大学、国立情報学研究所等を訪問しました。生徒は仕事への思いを熱く語る先輩に圧倒されながら、最先端のそれぞれの分野を肌で感じ、世界的な社会問題に触れ、将来の活躍の場を見定める機会になっています。先輩からの温かい励ましや助言が、志をなお一層強くします。

また同窓会からは、生徒の日頃の努力に対する奨学金による支援も充実しており、進路実現を支えていただいています。

(4)芸術鑑賞

全校生徒を対象として、キャナルシティ劇場や博多座にて演劇等の鑑賞を実施します。本格的な施設で本物の舞台芸術に触れ、芸術に対する感性を磨き、豊かな感受性を醸成します。校内にも生徒の様々な芸術作品が飾られていて、生涯にわたり芸術文化を愛する心情を育み、情緒豊かな表現力が養われます。そのため芸術系の進学者も増え続けており、今後も実施していきます。

(5)部活動

「文武両道」の本校では、多くの部活動が熱心に活動し、今年もビーチバレー部や水泳部、囲碁部が全国大会、その他の部も県大会に出場するなど素晴らしい成果を挙げています。その中でも管弦楽部は、県立高



管弦楽部

校では大変珍しいオーケストラ編成で、中学校と高等学校合わせて90人の部員が所属しています。全国大会に留まらず、全日本高等学校オーケストラ連盟による管弦楽オーケストラ研修に部員が選ばれるなど、全国的にも注目されています。今年7月には、世界的に有名な指揮者佐渡裕先生さど ゆか指揮による「奇跡のコンサート」を行橋市民体育館で実現することができました。今後も幅広い活動を期待しています。

おわりに

本校は、みやこ町をはじめとする地域の方やPTA、多くの同窓生に支えられ、様々な分野に有為な人材を生み出し、地域の教育力を高めてきました。今後も社会を支える人材を輩出し地域の教育・文化の発信拠点となる学校であり続けなければなりません。今後一層生徒のグローバルな視点の育成と、地域に根ざした教育のさらなる充実を図ります。

都会の喧噪から離れた錦陵の地は、脈々と伝統を受け継ぎ、若者の熱意に応える最適な学問の場です。「錦陵魂」を100年、その先へと継承し、時代の変化を先取りしながら社会や地域に貢献する事が本校の使命です。

「時間割づくりは人生づくり」 生徒のキャリア形成とともに

福岡県立西田川高等学校



はじめに

本校は田川市にある創立104年目を迎える地域に根差した伝統校です。昭和24年に校名が現在の福岡県立西田川高等学校となり、今日まで地域の全日制普通科高校として発展してきました。

本校は、令和元年の「単位制高等学校「フレックス型」整備計画」により、令和3年度から年次進行で、フレックス型単位制高等学校（以下「フレックス型高校」という。）へ移行することが決まりました。

フレックス型高校は自分の進路や興味・関心に応じ、講座の中から何をいつ学ぶかを自分で決めて時間割を作成する、個別最適化を可能にした定時制単位制高校です。

令和2年4月1日に、本校に設立準備室が設置され、翌年4月9日、筑豊地区唯一のフレッ

クス型高校「西高フレックス」がスタートしました。

1 「西高フレックス」スタートまで

令和元年度は、他県のフレックス型高校の視察を行い、「整備計画」の理念に基づいた教育目標及び教育課程、教育活動の特色等の策定、給食開始の準備や、ロッカーや教室といった施設・設備の整備を行いました。また、フレックス型高校への移行について学区内の中学校等へ説明を行いました。令和2年度は、教育目標や校訓等の大綱の策定や教育課程の編成、ガイドブック作成、福岡県立大学との連携協定締結、広報活動等を行いました。

並行して校内に単位制構想委員会を設置し、全日制との併置による運営課題の整理や諸規定の整備等、単位制開課程の準備を進めながら、事務室と共に学校運営の予算及び学校徴収金、

給食、備品や施設・整備等について検討・協議を行い決定しました。全日制からフレックス型への移行は、入学者選抜をはじめ、時間割づくりのための受講ガイダンスや受講登録、ホームルームの在り方等、学びの制度が大きく転換するため、先進校である博多青松高等学校、ひびき高等学校の協力を得て、単位制構想委員が業務研修を行い、校内での職員研修を行いました。また、筑豊地区を中心に各市町村の教育委員会及び中学校を訪問し、フレックス型高校の説明を行いました。あわせて、本校での説明会や各地区での説明会を開き周知を図り、新入生を迎えました。



入学式

2 今年度の取組

令和3年度の「西高フレックス」のスタートにより、現在、制服を着用した全日制と私服のフレックスの生徒が同じ校舎で学んでいます。特別教室や図書室等は共用、部活動も一緒に活動をしています。一つの職員室で、校務分掌も一体的に運用しています。運営委員会をはじめ各種委員会も可能な限り合同で開催し、情報共有を図っています。フレックスのスタートとともに全日制も二期制となり、情報共有及び職員研修という視点から成績会議も合同で行いました。若い職員も多く、評価方法や評価の観点等、相互に良い研修の機会となりました。

また、ICT活用の取組を更に推進するため合同のICT推進委員会を設置し、オンライン授業でのZoom配信、各教科の授業への活用等の推進や検討を行なっています。9月には生徒も含めたZoomの接続研修を行い、全日制は進路説明会、フレックスは前期終業式をZoomで行うなど様々な挑戦をしています。

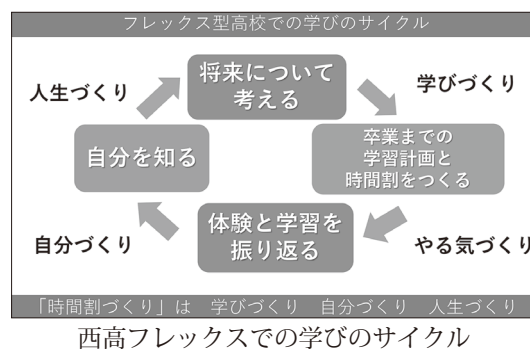
本校は、体験や学習を振り返り、自己概念を形成しながら将来の展望を考え、時間割づくりをしていく学びのサイクルがあります。そのためフレックスではキャリア形成に重点を置いた

教育活動を展開しています。

8月には、進学を考えている20名の生徒の「キャリア・キャンプ」を実施しました。大学教授の講演会の後、本校の各年度の卒業生と

もにパネルディスカッションに参加し、その後の分科会で卒業生の話を聴くというものです。高校時代の経験談等を卒業生から語ってもらい、今の自分を見つめるきっかけになったようでした。

10月には「近未来ガイダンス」を全員参加で実施しました。16の講座の中から自分の進路や興味・関心に応じて2つ以上選択し参加するものです。生徒の事前アンケートから、講師は専門学校の先生方や、田川の地で活躍している地域の方々に依頼し、「なぜこの仕事に就いたのか」等様々な話をしていただきました。職業観や人生観にふれ生徒が近い未来を考えるためのきっかけとなった1日でした。



また、生徒にぜひ聴いて、見て、感じてほしいことを伝えるために、ガイダンス部の先生方を中心に公式YouTubeチャンネルを開設しました。ここでは先生方の体験談や地域の方々の話等を発信していきます。

3 今後の取組

来年度は、地域課題の探究学習を行うため、今年度の総合的な探究の時間では、身近な課題を通したミニ探究を経験する事前学習を計画しています。

今後は更に生徒の体験や思考が深まり、各教科と横断的で効果的なキャリア形成が図れるための講演会や講座の開設等を検討するとともに、地域との連携をより一層深め、地域に開かれたより魅力ある学校となるよう研究していきたいと考えています。

おわりに

「西高フレックス」は、同窓会や地域の方々、そして何よりもこれまでの伝統があつて今を迎えています。周囲への感謝を忘れず、人との関わりを大切にし、豊かな心を持って持続可能な社会に貢献できる人材を育成できるよう、今後も生徒と共に成長していきます。

令和元・2・3年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業研究 幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐ カリキュラム・マネジメントの推進

義務教育課

1 本重点課題研究の概要 ※カリキュラム・マネジメントを以下C・Mと表記

(1) 重点課題設定の背景

これまでの全国学力・学習状況調査等の結果から、本県の課題として、幼・保・小・中で目指す子ども像が一貫しておらず、子どもが自ら学び自ら考える力を育む具体的な取組に継続性がないことが挙げられています。こうした課題を解決するために、義務教育の終了段階で目指す子どもの姿を明確にした上で、幼・保・小・中のつながりのある教育課程を編成し、子どもの主体的な学びをつないでいくことが求められます。

(2) 目標

幼児期から児童期、青年期への発達や学びの連続性を確保するための教育課程の編成や、幼児教育と小・中学校教育の連携を通して、円滑な接続を図る推進体制の在り方を究明します。

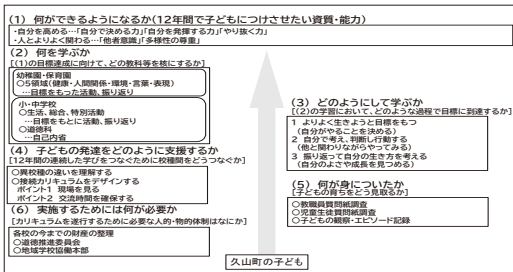
2 研究指定・委嘱校の実践

(1) 久山町教育委員会

● 研究主題

伸びようとして動く子どもを育む
〈道徳教育を中心とした十二年間の教育カリキュラム〉

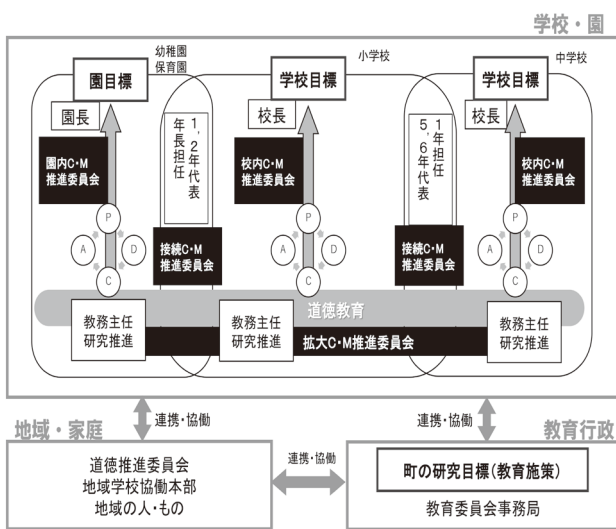
1. 幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐカリキュラム・マネジメント
久山中学校区では「自分を高める」「人とよく関わる」という2つの軸で、「伸びようとして



動く子ども」を育成しています。また、道徳教育を特色とし、「C・M6点の枠組み」【図1】を基本として、久山町の全教職員が、「目指す子どもの資質・能力一覧表」【図2】を意識したカリキュラムを作成、実施、評価・改善することで、十二年間の一貫した指導を継続しています。

「自分を高める」ための3つの力	幼稚園・保育園の姿	小学校1,2年の姿	小学校3,4年の姿	小学校5,6年の姿	中学校の姿
身に付けたい力	道徳力での内面性(徳)				
自分で決める力	誠実 自主、自律	よいこと悪いことがわかり、自分なりに考え、行動し、責任をもち、行動する。	周囲に意見を述べ、正しいと思うことを自分の意思で判断し行動する。	失敗をしても、自分の責任で正しいと思うことを判断し行動する。	何が正しく、何が誤りかを自ら判断して責任しい行動をとる。自らを律し、人間として誇りをもった責任ある行動をとる。
自分を発展させる力	個性の伸長 向上心	自分のやりたいことに向かって、遊びや生活を進めていく中で、自分の力を発揮する。	自分の長所に気づく。	自分の長所を積極的に伸ばそうとする。	自分の長所を肯定的にとらえ、自己の優れている面などの長所を認め、自己の個性を生かそうとしたり、向上させようとする。
やり抜く力	意欲と勇気、 努力と強い意志	初めてのことや学業なことにも挑戦しようとし、最後までやり遂げようとする。	自分でやろうと決めた目標に向かって、粘り強くやり遂げる。	より高い目標を設定し、困難があっても諦めずやり遂げる。	困難や失敗の体験を受け止め、自己自身の弱さにも打ち向き、挑戦することから逃げないで努力する。

【図2】「目指す子どもの資質・能力一覧表」の一部



II. 中学校区における幼・保・小・中の連携推進体制整備
3つの推進委員会(拡大C・M推進委員会、接続C・M推進委員会、校内C・M推進委員会)を計画的に開催したことで、子どもの活動や交流の様子をもとに段階的な協議を行うことができ、幼・保・小・中の連携の強化につながっています。また、教育委員会が地域学校協働本部等を活用して、必要な人的・物的支援を行うことで、主体的な学びを支援しています。【図3】

さらに、幼児教育アドバイザーが中心となり、幼・保・小の教職員と共にアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの整備を行い、子どもの発達段階を踏まえた連携、継続的効果的なC・M推進を図っています。

● 桂川町教育委員会
研究主題

ふるさとを愛し、未来を担う人材を育成するカリキュラム・マネジメント
（ふるさと「けいせん」プロジェクトを通して）

1. 幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐカリキュラム・マネジメント
桂川中学校区では、よりよい生活をめざす「自己表現力」と社会での役割を果たす「社会参画力」を身に付けた子どもの育成を目指しています。

そのために、幼・小・中連携に係る「めざす子ども像」【図4】及び「育てたい資質・能力」を明確にし、研究を進めてきました。「ふるさと学習一覽表」【図5】や「学年カリキュラム」「重点単元の評価規準表」【図6】を作成したことで、園や各学校のつながりが明確となり、充実した実践を重ねています。

また、校種を越えて教育を円滑につなぐために、園や各学校の教員が連携して作成したアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの実践及び改善を継続することで、幼児が小学生にあこがれを抱いたり、学習や活動に主体的な児童の姿が見られたりするようになりました。

ふるさとを愛し、未来を担う子ども
【自己表現する子ども】
郷土を誇りに思い、高い志と理想をもって、自らの夢の実現に向けて学び続ける子ども
【社会参画する子ども】
地域の人々と支え合い、協働しながら桂川町の未来を切り拓く資質と能力を身につけた子ども

【図4】めざす子ども像

めざす子ども像		各学年において重点化する生活科単元、総合的な学習の時間の探究課題		連携・協働する地域の人・もの・こと
		桂川小学校	桂川東小学校	
学年	自己表現する子ども	家族や学校、地域に親しみ意欲や自信を持って学ぼうとする子ども	家族や学校、地域に支えられながら成長している自分自身に気付き、自分の仕事に意欲的に取り組もうとする子ども	・町立図書館・郵便局 ・地域のお店 ・嘉穂総合高校 ・榎木園
	社会参画する子ども	小学生との交流を通して、小学校生活にあこがれや期待をもつ子ども	小学生との交流を通して、小学校生活にあこがれや期待をもつ子ども	・嘉穂総合高校 ・地域の人(むかし遊び) ・桂川幼稚園 ・アンビシャス広場 ・おはよう舎
	園内外の環境に親しみ、生活に誇りを持ち、生活を楽しもうとする子ども	園内外の環境に親しみ、生活に誇りを持ち、生活を楽しもうとする子ども	園内外の環境に親しみ、生活に誇りを持ち、生活を楽しもうとする子ども	・東小1年生 ・地域の方 ・いっぴぐ桂川 ・桂小5年生 ・地域の自然
重点単元	○(地域施設探検)まちが大好きたんけんたい ○(地域と生活)えがおのひみつたんけんたい ○(自分の成長)あしたへつなぐじぶたんけん	○(地域施設探検)まちが大好きたんけんたい ○(地域と生活)えがおのひみつたんけんたい ○(自分の成長)あしたへつなぐじぶたんけん	○(地域施設探検)まちが大好きたんけんたい ○(地域と生活)えがおのひみつたんけんたい ○(自分の成長)あしたへつなぐじぶたんけん	
重点単元	○(地域小学校での生活)わくわくどきどきしょうがっこう ○(地域自然探検)きせつとなかよしあき ○(自分の成長)ようこそ小学校へ	○(地域小学校での生活)わくわくどきどきしょうがっこう ○(地域自然探検)きせつとなかよしあき ○(自分の成長)かぞくここにこにこ大きくせん	○(地域小学校での生活)わくわくどきどきしょうがっこう ○(地域自然探検)きせつとなかよしあき ○(自分の成長)かぞくここにこにこ大きくせん	
重点単元	○(地域小学校へ向けた園生活)たのしみだな小学校 ○(社会生活との関わり)ようこそひまわりショップへ ○(地域自然探検)ようちえんのまわりであそびまっけよう(年中)	○(地域小学校へ向けた園生活)たのしみだな小学校 ○(社会生活との関わり)ようこそひまわりショップへ ○(地域自然探検)ようちえんのまわりであそびまっけよう(年中)	○(地域小学校へ向けた園生活)たのしみだな小学校 ○(社会生活との関わり)ようこそひまわりショップへ ○(地域自然探検)ようちえんのまわりであそびまっけよう(年中)	

【図5】「ふるさと学習一覽表」の一部

学年	めざす子ども像		重点単元における「自己表現する子ども」と「社会参画する子ども」	
	自己表現する子ども	社会参画する子ども	桂川小学校	桂川東小学校
小2	家族や学校、地域に親しみ意欲や自信を持って学ぼうとする子ども	家族や学校、地域に支えられながら成長している自分自身に気付き、自分の仕事に意欲的に取り組もうとする子ども	【自己表現する子ども】 地域で生活したり働いたりしている人々やさまざまな場所が自分の生活を支えていることを知ろうとする子ども	
小1			【社会参画する子ども】 学校生活は様々な人や施設がかかわっていること、学校生活での決まりを守ると気持ちよく過ごせることに気付く子ども	
幼稚園	園内外の環境に親しみ、生活に誇りを持ち、生活を楽しもうとする子ども	小学生との交流を通して、小学校生活にあこがれや期待をもつ子ども	【社会参画する子ども】(年長) 小学校5年生との給食を通して体験・交流をすることにより、小学校生活に対する興味や関心をもつ子ども	
			【自己表現する子ども】(年中) 自分たちで話し合って選んだ内容を運動遊びに取り入れ、意欲的に身体を動かして活動を楽しもうとする子ども	

【図6】「重点単元の評価規準表」の一部

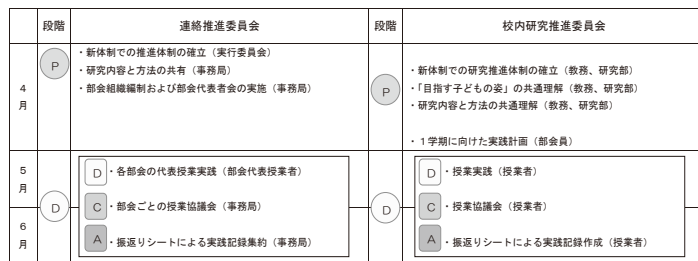
II. 中学校区における幼・保・小・中の連携推進体制整備
連携推進委員会が中心となり、既存の低・中・高学年部会を生かした4プロジェクト部会【図7】を組織することで、全職員の共通理解と協力体制の構築を図っています。

また、幼・小・中連携推進マネジメントロードマップ【図8】を作成したことで、2つの推進委員会における年間の取組が明確となり、円滑な会の運営につながっています。

幼・小・小・中の連携が必然となる部会をつくったことで、異校種の理解が進み、学校の教育活動に関する教職員員の意識が向上しました。

3 重点課題研究指定・委嘱事業の成果

重点課題研究指定・委嘱事業の成果等については、義務教育課の各種資料のページ【<http://gimu.kyu.ed.jp>】で公開しています。



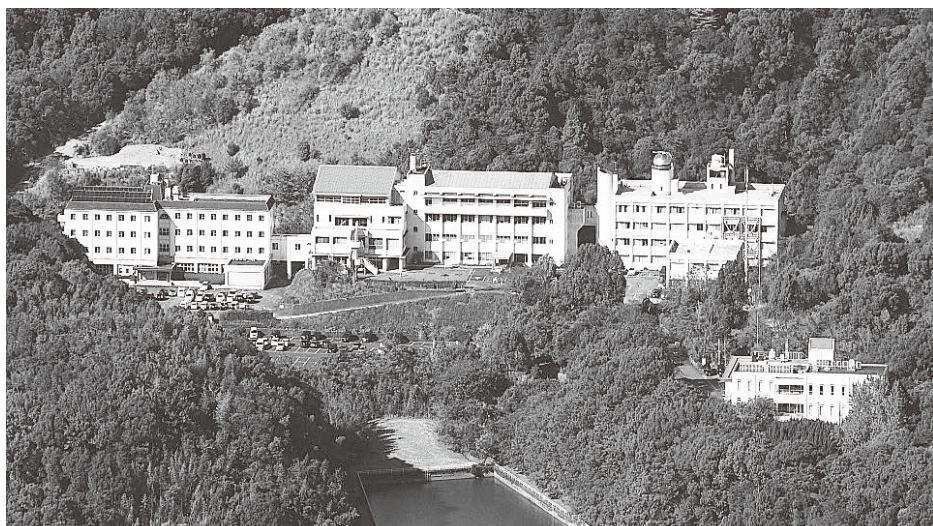
【図8】幼・小・中連携推進マネジメントロードマップの一部

第1部会	幼～小2
第2部会	小3～小4
第3部会	小5～中1
第4部会	中2～中3

【図7】4プロジェクト部会

福岡県教育センター 創立50周年について

福岡県教育センター



福岡県教育センター全景

1 教育センターの歴史

福岡県教育センターは、戦後間もない昭和25年に、県立聾学校（福岡市新開町）内に設立された「福岡県立教育研究所」を前身とし、その後、3度の移転を経て、昭和45年に緑豊かなここ篠栗の地に「福岡県教育センター」として新たに発足し、今日に至っています。

設立当初の、管理棟、研修棟、実習棟、そして旧教員保養所の建物を転用した宿泊棟の4つの施設に加え、時代の要請に応じて、情報処理教育センター棟、特殊教育センター棟（現、特別支援棟）が建設されました。その後、増改築が行われ、施設が現在の状態に整備されました。

この間、幾度かの組織改編と機能拡充が図られ、現在は5部・2課・9班の体制の下、教職員の資質向上を目指す「研修事業」、本県の教育課題を解決するための「研究事業」、個々の学校や教職員の教育活動をサポートする「支援事業」等を実施し、本県の教育研究、指導改善

の中核施設としての役割を担っています。

2 教育センター事業について

当センターの使命は、福岡県教育大綱及び福岡県学校教育振興プランに基づき、本県の学校教育の目標を達成するため、各学校等が、社会の変化や子供、学校、地域等の実態に応じ、本県の特徴を生かした教育活動を自律的に創造及び推進できるよう、研修・研究・支援を中心とした事業を実施することです。

【研修事業】

平成29年に施行された教育公務員特例法の一部を改正する法律に基づき、福岡県教育委員会では平成30年3月に「福岡県教職員育成指標」を策定し、平成30年度に新しい研修体系に基づく教職員研修計画を策定しました。教職員研修計画では、法令に定められた研修をはじめとする市町村（学校組合）立及び県立学校対象の基本研修が大きく見直されるとともに、市町村（学

校組合) 立学校対象の研修の多くが当センターで実施されることとなりました。多くの若年教員等が当センターで研修を受講する機会が増えてきています。

また、専門研修(キャリアアップ講座、ミドルリーダー養成講座、福岡教師塾)の実施に当たっても、教職員一人一人のキャリアステージや職務に応じた資質・能力を育成するために、「福岡県教職員育成指標」を踏まえた研修を体系的かつ効果的に企画及び実施することを基本方針としています。

特に、平成23年度から、新たな教育観で福岡県の教育をリードするトップレベルの人材育成を目的とした研修、「福岡教師塾」を実施しています。「志を立てて、以て万事の源となす」を理念に、各界の一流な講師陣や主体的で豊富な演習等、研修内容も充実しており受講者の評価も非常に高いものがあります。今年度10回目を迎え、更なる内容の向上を図っていきます。

【研究事業】

令和元年度までは、当センター独自の調査研究に取り組み、研究協力校を委嘱するとともに、教育に関する理論と実践の有機的関連を図りながら、研究の成果物を発信してきましたが、令和2年度からは、「県重点課題研究指定・委嘱事業(指定期間3年)」との連携を図って

おり、主に一年次の研究構想を構築する段階に対し、教育庁本庁関係課、教育事務所、当センターで編成したチームによる研究支援を行っています。

【支援事業】

平成29年度に当センターの主要事業を見直し、新たに「間接的な支援」及び「直接的な支援」の編成で支援事業を行っています。「間接的な支援」では、「教育センターホームページ」をリニューアルして情報発信力を高めており、当センターや他機関が作成したコンテンツ等を積極的に配信しています。特に、令和2年4月、緊急事態宣言発令により学校が臨時休業となった事態を受けて、児童生徒の学習や保護者・学校関係者等による教育活動等を支援するため、「ふくおか学びの応援サイト」を創設しております。

より多くの教職員の方々にみていただけるよう、福岡県教育委員会の取組である「ふくおか教育月間」が毎年11月に実施されることを機に、当センターにおいても令和3年11月1日からInstagramを開始し、教育情報やコンテンツ及び悪天候等による研修中止等の緊急情報を発信することとしました。

「直接的な支援」では、「学校支援なんでも相談室」における電話・メール等による相談や、

「派遣コンサルタント」「どこでもセミナー」といった指導主事派遣事業を引き続き行っています。

おわりに

今後も、学校現場においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点や、豪雨や地震等の自然災害の発生による臨時休業など、学びを継続する上での様々なリスクが予想されます。ただ、いかなる場合も「福岡県の子どもたちの可能性を伸ばすため、教職員の学びを止めない」という福岡県教育センターの使命を全うするために、職員一丸となって時代の要請に応じた様々な教育課題の改善充実について取り組んでいきます。

福岡県教育センター
Instagram 始めました!!



Follow us!!

Kyoiukcenterfukuokaken

福岡県教育センターホームページでは、
教育情報を発信しています!



01 共創しよう!
教育の未来

URLはこちら>>>
<http://www.educ.pref.fukuoka.jp>

学校・地域の中核となる教職員を育成する 令和3年度長期派遣研修について

福岡県教育センター

はじめに

昨年度、開所50年を迎えた福岡県教育センターでは、「福岡県教育公務員の長期にわたる研修に関する規則」に基づいた長期派遣研修事業を実施しており、半世紀にわたり本県教育を支えるリーダーを数多く輩出してきました。令和3年度は県内の小、中、高等学校、特別支援学校より、36名の研修員が現職のまま1年間の研修を行っています。

本稿では「長期派遣研修」の概要と今年度の研修状況について紹介します。

1 長期派遣研修とは

長期派遣研修は、「地域の中核となる教職員として必要な資質・能力を、育成指標に示すキャリアステージに応じて習得させ、学校教育に係る喫緊の課題に対応できる人材及び学校・地域における研修や教育活動を総合的にけん引する人材の育成を図る」ことを目的とし、研修員のキャリアステージや資質・能力に応じた実践的経営力、企画力、指導力を育成するための

研修です。

2 令和3年度の研修について

(1) セルフマネジメント研修（通年）

セルフマネジメント研修は、研修員が、自身のキャリアステージや資質・能力を基に、次年度につながる目標を設定し、年間の研修計画を設定する研修です。

(2) 主題研修（通年）

主題研修は、国や県の教育動向に基づいた地域や学校の教育課題について、長期派遣研修員自身のキャリアステージや目指す資質・能力を踏まえながら、実践的に解決する研究や調査を行う研修です。また、県内の教職員に研究成果を還元するために、研究発表会における研究成果の発表や、報告書等を教育センターホームページで公開しています。各研修員の研究の領域については、次のとおりです。

- ・各教科等の学習指導・・・12名
- ・総合的な学習の時間、特別活動・・・2名
- ・組織マネジメント・・・3名

- ・人権意識を高める学習指導・・・1名
- ・生徒指導・教育相談・・・3名
- ・産業教育・・・1名
- ・情報教育・・・4名
- ・特別支援教育・・・10名

▼令和2年度までの研修報告書

福岡県教育センターホームページで見ることができます。

http://www.educ.pref.fukuoka.jp/intro/pub/default.aspx?c_id=8



(3) 一般研修

ア 自己課題研修（通年）

自己課題研修は、主題研修で研究する領域以外の領域から課題を設定し、追究する研修です。研修終了後、研修員の活用していきたい場面に応じて、職員研修のための資料や教材作成等を行います。

イ セミナー研修会（年間13回）

セミナー研修会は、各分野の専門性に基づく指導主事からの講義・演習や協議を行う研

修会です。本年度は、講義・演習と協議を関連付け、「学んだことをアウトプットする」ことを重視しています。本年度実施した内容は次の通りです。(10月現在)

- 第1回 研修員の服務、教育法規
- 第2回 福岡県の教育課題、経営課題について
- 第3回 ICT活用について
- 第4回 令和の日本型学校教育について
- 第5回 インクルーシブ教育について
- 第6回 校内研修について
- 第7回 カリキュラム・マネジメントについて
- 第8回 部長講話
- 第9回 OJTについて

▼本年度のセミナー研修会等の様子は、教育センターホームページにある長研通信で確認できます。

http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=712



ウ 専門研修の受講

研修員のニーズや解決したい課題に合わせて、教育センターが実施している専門研修(キャリアアップ講座、ミドルリーダー養成講座)を受講します。

エ 福岡教師塾への参加

視野や視座を広げる研修である福岡教師塾の講師の講義・演習を受講します。

オ ICT活用研修について

GIGAスクール構想の実現を踏まえ、喫緊の課題であるICT活用についての研修を実施します。



(セミナー研修会、ICT活用研修の様子)

3 研究発表会及び研究発表動画等公開の予定

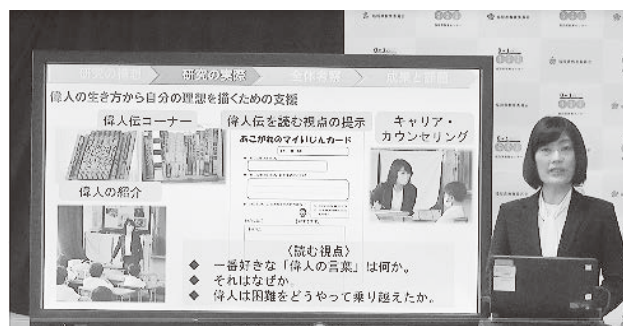
(1) 研究発表会について

長期派遣研修員の主題研修の研究成果を発表する研究発表会については、創立50周年記念行事と共に実施する予定です。

期日 令和4年2月4日(金)
場所 福岡県教育センター

(2) 研究発表動画及び報告書の公開について

研修員の研究成果については県内の教職員が見ることができるよう、動画にしてホームページにて公開する予定です。2月末には研修報告書と合わせて公開します。多くの皆様に御視聴いただきたいと思います。動画の視聴方法、研修報告書については、後日各学校等にお知らせする予定です。



(令和2年度研究発表動画)

4 令和4年度長期派遣研修について

最後に、令和4年度長期派遣研修については、これまでのよりも研修の成果が所属校や地域の教育活動に還元できるよう更に研修の内容を充実、発展に努めます。

スクール・ミュージアム事業（アートコース）について

福岡県立美術館

はじめに

スクール・ミュージアム事業は、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館、九州歴史資料館が主催する学校支援事業です。児童生徒が、各施設での様々な学習プログラムを通して新たな見方や感じ方、考え方に気付くとともに、文化施設利用のマナーを学習することを目的としています。

現在は、福岡県立美術館でアートコース、福岡県青少年科学館でサイエンスコース、九州歴史資料館で歴史コースをそれぞれ実施しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、様々な制約のもと学習プログラムを見直しながら実施しました。ここでは、福岡県立美術館での令和2年度アートコースの実施内容をもとに、本事業についてご紹介いたします。

1 事業の概要

(1)実施期間

令和2年5月から令和3年2月まで

(2)対象校

県内の公立小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校（両政令市立学校を含む。）

(3)補助対象経費

左記の必要経費（実費相当額）を福岡県教職員互助会が負担します。

・児童生徒及びその引率教職員の観覧料

・往復バス借上料（JRや地下鉄、船、車椅子運搬用トラック等交通費を含む。）及び有料道路使用料（実費相当額）

・学習プログラムの実施に係る材料費

※バス借上料1台当たりの上限があります。

※往復の経路に体験活動を行う他の社会教育施設に立ち寄ることも可能です。

※福岡県立美術館以外の施設で発生する費用（入場料、駐車料金等）及び旅行傷害保険

料は補助対象外です。

2 実施内容と児童生徒の様子

福岡県立美術館が実施する「アートコース」では、児童生徒が美術館で美術作品を直に鑑賞することを通して、美術に対する興味・関心を高めたり理解したりする機会を提供します。児童生徒の実態や鑑賞する展覧会の特徴などを考慮しながら、学校の担当者や美術館職員が相談して、いくつかの活動メニューを組み合わせて学習プログラムを作成します。令和2年度は、展示室内での対話を伴う活動は行わず、密を避けるため少人数のグループに分かれて移動するなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組みながら実施しました。ここでは、基本となる活動メニューの一部をご紹介します。

(1)鑑賞マナー学習

来館する全ての児童生徒に対して実施する活動です。美術館の役割や使命、そして美術館で

の鑑賞マナーについて学習します。公共施設でのマナーは来館者全員が心地よく過ごすためにあるものです。理由を考えながら美術館でのマナーを知ること、いろいろな場面でもマナーが必要なのかを理解することができます。

(2) 展覧会紹介・鑑賞のワンポイント

展示室での鑑賞活動に入る前に、別室でスライドを用いながら展覧会の見どころや鑑賞の仕方について説明します。具体的な一例として、題名をヒントに作品を鑑賞する方法を紹介しました。ここでは、一見して何が描かれているかわからない作品を示し、題名を知ると後での作品の見え方の違いを体験してもらいました。題名を知る前は単なる赤い絵の具の塊にしか見えなかったものが、題名を知った後は道端に咲く花に見えるようになり、児童が感嘆する様子が見受けられました。このように、展示室に入る前に様々な作品の見方があるということを説明することで、その後の鑑賞活動へ興味が高まり、より深い鑑賞活動を促すことができました。

(3) ワークシートに沿った自由鑑賞

展示室の中で自由に作品を鑑賞し、ワークシートに沿って展示作品の中から自分の「お気に入りの1点」を探します。ワークシートは、なぜその作品を選んだのかなど、具体的に自分の思いや考えを書き込むことによって、児童生徒が自分自身との対話を深められるように工夫

されています。

鑑賞活動では、「展覧会紹介」で受けた説明をヒントに、様々な場所や角度から作品を見て、絵の具の凹凸や細かい描きこみに気付いたり、作品の色や形、題名などを手がかかりにして何が描かれているかを推理したりする姿が見られました。また、ワークシートに対する参加校の先生方の評価も高く、「子どもたちの鑑賞活動がより主体的なものになった」といった声を多くいただきました。

(4) 学習のまとめ

鑑賞活動の後、ワークシートにまとめたことを発表し合い、個々が感じたことを参加者全員で共有するシェアリング活動を行います。自分以外の人が作品から感じ取ったことを知るこ



お気に入りの作品を探す児童



作品を熱心に鑑賞する児童

で、同じ作品でも人によって感じ方・とらえ方が違うということを楽しく様子が見られ、児童生徒が自分の見方・考え方を深めるうえで効果的な学習活動となりました。



手をあげて自分の見方・考え方を伝えようとする児童たち

おわりに

現在、次年度（令和4年度）のスクール・ミュージアム事業の参加校を募集中です。募集要項は、一般財団法人福岡県教職員互助会から各学校に発送しています。令和4年2月11日（金・祝）必着で、一般財団法人福岡県教職員互助会に必要書類を添えてお申し込みください。

児童生徒にとって、美術館が生涯にわたる心豊かになれる場となるよう、今後も本事業の充実を図ってまいります。

福岡県立美術館

〒810-0001 福岡市中央区天神5-2-1

TEL 092 (715) 3551

FAX 092 (715) 3552

<https://fukuoka-kenbi.jp/>

令和3年度の取組

福岡県体育研究所

1 専門研修（短期研修）講座

本講座は、学校体育・スポーツ及び健康教育等に関する研修を行い、専門的知識や技能の習得、学習指導の工夫・改善などの実践的指導力の向上を目的として行っています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により全講座中止となりましたが、本年度は、感染症対策を十分に講じながら全22講座を実施しました。本講座の特徴は、著名な講師陣による学習指導要領に対応した内容はもちろん、現代の教育課題や最新の教育動向に対応した講義及び実技・演習を交えた研修を行っている点です。本年度は、学習指導要領に明記された「共生の視点」をテーマにした授業づくりを学ぶ研修を新たに開設しました。一部の講座は、オンライン研修となりましたが、受講した先生方からは、「すぐに実践に役立つ」や「参加しやすかった」などの感想が多く寄せられ、大変好評を得ています。来年度については、現在計画中です。みなさんの日々の授業実践等に役立つ講座を企画していきますので、是非ご参加ください。

○令和3年度専門研修（短期研修）講座一覧

講座名	対象校種	日程	講師
「運動的な遊び・運動遊び」	幼小特	6月24日（木）	岐阜大学 教授 春日 晃章
「体づくりの運動遊び・体づくり運動」	小特	7月14日（水）	筑波大学 准教授 三田部 勇
「体育の授業づくり」	小特	7月26日（月）	国土舘大学 教授 細越 淳二
「体育の授業づくり」	小特	7月27日（火）	国土舘大学 教授 細越 淳二
「ゲーム・ボール運動」	小特	8月30日（月）	立命館大学 教授 大友 智
「体育の授業づくり」	小特	10月15日（金）	日本体育大学 教授 白旗 和也
「陸上競技」	中高特	7月 2日（金）	国土舘大学 講師 陳 洋明
「ダンス」	中高特	7月29日（木）	日本女子体育大学 教授 宮本 乙女
「球技の授業づくり」	中高特	9月22日（水）	日本女子体育大学 准教授 須甲 理生
「体育の授業づくり」	中高特	9月30日（木）	福岡教育大学 教授 本多 壮太郎
「体育理論」	中高特	10月 6日（水）	早稲田大学 准教授 深見 英一郎
「体育の学習指導」	中高特	10月29日（金）	桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊
「水泳運動・水泳」	小中高特	6月22日（火）	東海大学 教授 大越 正大
「器械運動」	小中高特	8月 3日（火）	宮崎大学 教授 三輪 佳見
「保健の授業づくり」	小中高特	8月 5日（木）	東海大学 教授 森 良一
「共生の視点に立った体育学習の進め方」	小中高特	8月 6日（金）	横浜国立大学 教授 梅澤 秋久
「健康教育」	小中高特	9月14日（火）	横浜国立大学 教授 物部 博文
「体力向上の方策」	小中高特	10月19日（火）	西九州大学 准教授 松本 大輔
「学校における救急処置」	小中高特	7月16日（金）	まえた整形外科 院長 前田 朗 博多ひざスポーツクリニック 九州大学病院眼科 医師 石津 正崇
「養護教諭の資質向上」	小中高特	7月30日（金）	愛知教育大学 特別教授 後藤 ひとみ
「特別支援学校における体育の授業づくり」	特（小中高可）	8月 4日（水）	東海大学 教授 内田 匡輔
「スポーツリズムトレーニング」	幼小中高特（一般参加あり）	10月20日（水）	からだ改善スタジオ 笑顔工房ふれ〜る代表 認定インストラクター 佐々木 倫子



★すべての子供が共に
生かし合う体育へ！
「共生の視点に立った
体育学習の進め方」

横浜国立大学
梅澤 秋久 教授



★小学校公開授業講座！
子供一人一人に学びがある！
「体育の授業づくり（小）」

日本体育大学
白旗 和也 教授



★運動好きへのスイッチオン！
「体づくりの運動遊び・
体づくり運動」

筑波大学
三田部 勇 准教授

2 専門研修（断続研修）講座

本県における学校体育・スポーツ及び健康教育等の充実・発展を図り、県・地域及び学校において活躍できる実践的かつ高度な専門的指導力を持つ人材の育成を目的として、「保健体育研修講座」及び「養護教諭研修講座」を開設しています。

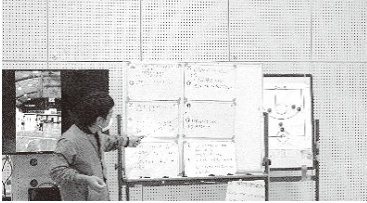
いずれの講座も、短期間では習得困難な知識・技能を身に付けることができるように、年間12回の研修を設定しています。小・中・高・特別支援学校の異校種の教員が集う研修は、それぞれの校種の学習指導だけでなく、12年間の系統性を学ぶ大変貴重な機会であり、全国的にも珍しい講座です。

(1) 保健体育研修講座（平成16年度より）

運動する楽しさを実感できる授業づくりや授業参観を通じた授業分析の方法と学習指導要領の理解及び本県の体育・スポーツ行政等を理解する講座を設定し、今年度は小・中・高・特別支援学校から13名が受講しています。



★保健体育研修講座
桐蔭横浜大学
佐藤 豊 教授



★保健体育研修講座
(代表授業研修会)



★養護教諭研修講座
福岡県立大学
松浦 賢長 教授



★養護教諭研修講座
岡山大学大学院
松枝 睦美 教授

本年度の講師には、福岡教育大学本多壮太郎教授、桐蔭横浜大学佐藤豊教授、愛媛大学日野克博教授、久留米大学野田耕准教授等をお迎えし、授業づくりや授業評価方法の理解についての講義・演習のほか、各受講者の課題に基づいた研究構想や、代表者3名の検証授業に対する指導助言をいただきました。

(2) 養護教諭研修講座（平成22年度より）

養護教諭の職務である保健管理や保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動等の理解を深める講座を実施しています。特に多様化・複雑化する健康課題の解決に向けた外部機関や家庭、地域との連携・協議のあり方や、学校における救急処置に必要なフィジカルアセスメントについて実践的に学ぶとともに、学校保健活動を組織的に推進するマネジメント力を高める講座を受講し、個人研究を進めています。今年度は、小・中・高・特別支援学校から6名が受講しています。本年度の講師には、福岡県立大学松浦賢長教授、熊本大学久保昌子教授等をお迎えし、指導助言をいただきました。

3 調査研究事業

福岡県体育研究所では、令和2年度から「共生を基盤とした体育の授業づくり」について、調査研究を実施しています。

本年度は、県内6小学校・3中学校・6高等学校において、体育科・保健体育科学習の実践を通して、「すべての子どもが全力で楽しむ」体育科学習の具体について研究を進めています。研究の具体的な内容等については、本2・3月号に掲載しますので、是非ご覧ください。

なお、令和4年2月10日に福岡県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）で開催される「福岡県体育・スポーツ研修報告会」において、本研究の中間報告を行います。

4 支援事業

学校体育・スポーツ活動、学校保健に関する様々な相談に指導主事が対応します。

- 是非、ご利用ください。具体例は次の通りです。
- 指導主事の派遣（校内研修など）
- 体育科、保健体育科の指導計画の作成に關すること
- 授業研究に關すること
- 特別活動、総合的な学習（探求）の時間における体育・健康教育に關すること
- 保健教育・保健室経営に關すること
- 研修会における講師の紹介

ほかにも
役立つ情報が
いっぱい
ホームページへ



福岡県立スポーツ科学情報センターにおける 「スポーツ普及促進事業（アクションフェア）」について 公益財団法人福岡県スポーツ振興センター

はじめに

スポーツ基本法第二十三条では、「スポーツの日の行事」について、国民の間に広くスポーツについての関心と理解を深め、かつ、積極的にスポーツを行う意欲を高揚するような行事を実施すること、また、それぞれの生活の実情に即してスポーツを行うことができるような行事が実施されるよう、必要な施策を講じ、及び援助を行うことを、地方公共団体に求めています。

この趣旨を踏まえ、当センターでは、県民に広くスポーツの機会を提供し、生涯スポーツの実施の広がりを目指しています。多様なニーズに応じたスポーツに触れる機会をつくり、各スポーツ分野相互の理解を深めるとともに、生涯を通じてスポーツに親しむ意識を醸成することを目的として、毎年、スポーツの日にアクションフェアを実施しています。今年度はスポーツの日が、東京2020オリンピック開会式当日（7月23日）に特別措置で移動となったこともあり、10月第2日曜日の10月10日（日）に開催しました。

1 事業の概要

アクションフェアには、幼児から高齢者まで幅広い年代の方、また、家族連れも合わせると、例年多くの方々が参加されます。今年度は、東京で1964年に開催された第18回オリンピック競技大会から57年ぶりに、第32回オリンピック競技大会が開催されました。そのため、アクションフェアのテーマを「1964☆2021」57年に込められた想いを「1964☆2021」ラリンピックのレガシーを求めて」と設定し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」等の様々な関わり方を通して、豊かなスポーツライフにつながることを目指しました。スポーツに広く関心を持つていただくため展示ブースの設置、SNS（YouTube）



を利用した動画配信、スポーツへの関心を高める体験型イベント等を企画し開催しました。

2 各種スポーツ教室・イベント

《スポーツ教室・イベント体験》

今年度は3つのスポーツ教室と栄養講座を計画しました。ロンドンオリンピック銅メダリストバレーボール女子日本代表竹下佳江氏によるバレーボール教室、福岡を拠点に活動し、日本代表選手を輩出しているナナイロプリズム福岡によるラグビー教室、プロサッカーチームアビスパ福岡によるサッカー教室を実施しました。初めてこれらのスポーツに触れる子どもや更なる技術向上を求める子どもなど、多様なニーズに沿うことができました。



食事や栄養摂取から体づくりの基礎を学ぶ講座を株式会社明治の協力により実施しました。食育や栄養学の分野でも、スポーツに關与し、スポーツを支える立場での視点に立つことができるプログラムとなりました。

また、県立総合プールでは、25mタイムアタックを実施し、利用者等の日頃の練習成果を確認することができイベントとなりました。

《福岡県タレント発掘事業体力・運動能力測定会》『福岡から世界へ』を合言葉に、将来、福岡から多くのトップアスリートが輩出されるとともに、子ども達のスポーツへの興味関心を高めることを目標に実施している『タレント発掘事業』の1次選考会(体力・運動能力測定会)を実施しました。小中学生を対象とし、測

定結果を細かく分析した結果表をフィードバックしてきます。福岡県タレント発掘事業が開始され18年目を迎えます。東京オリンピック競技大会では、3人の修了生が、日本代表として出場し活躍しました。



定結果を細かく分析した結果表をフィードバックしてきます。福岡県タレント発掘事業が開始され18年目を迎えます。東京オリンピック競技大会では、3人の修了生が、日本代表として出場し活躍しました。

《オリンピック・パラリンピック展示コーナーの紹介》

館内展示として、第32回オリンピック競技大会、東京2020パラリンピック競技大会で活躍した福岡県にゆかりのある選手の紹介と競技結果やオリンピック・パラリンピックの歴史、競技種目の紹介ブースを設置し、オリンピック・パラリンピック教育の推進とスポーツへの関心を高めるきっかけづくりとしました。

《トレーニング室の無料開放・骨強度測定》

当センターをいつもご利用してくださるお客様に日頃の感謝を込めて、トレーニング室の無料開放を行いました。トレーニング機器を使った運動を、専門的な指導のもとに行い、このフェアをきっかけに健康づくりにつながる場となることを目指しました。また、加齢による骨粗鬆症の改善を図るため、骨強度を測定し、個人の状況や健康な体づくりを知ることができるようにしました。

3 アクシオンフェア関連企画

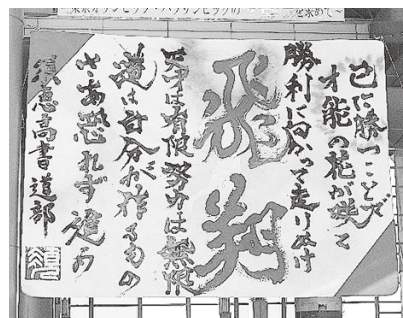
ヨガ、ピラティス等、気軽に自宅で運動をすることができるようになることを目的として、

レッスン動画をSNS (YouTube) にて配信しました。今後オンラインでのスポーツ教室や動画配信によるレッスンなど新たな取組の契機となることを期待しています。

また、福岡県立須恵高等学校書道部に、オリンピック・パラリンピックをテーマに作品の制作を依頼しました。作品の制作過程(書道パフォーマンス)を紹介し、スポーツとは別の視点から興味・関心を引き出す企画を計画しました。

おわりに

今年度のアクシオンフェアは、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底する中で、合計1149名の方に参加していただき、笑顔溢れるイベントとなりました。今後もスポーツ普及推進事業として、アクシオンフェアを計画し、施設開放や、スポーツ教室、ニュースポーツ及びレクリエーションに関するイベント、健康・体力測定等を実施し、県民の皆さまの健康・体づくり役に役立てていきます。また、多様なニーズに応じたスポーツに触れる機会を含め、子どもから大人まで生涯を通じてスポーツの「する」「みる」「ささえる」観点からスポーツを楽しむ場と機会の提供を実践していきます。



INFORMATION お知らせ

教職員課

市町村立学校の臨時教員等登録制度のお知らせ

市町村立の小・中・義務教育・特別支援学校（政令市を除く）の常勤講師、非常勤講師、養護教諭（期限付）、学校事務職員（期限付）、学校栄養職員（期限付）の希望者の登録を受け付けています。

資格：講師、養護教諭（期限付）については、登録を希望する種別、職種、教科の教育職員免許状を有すること。学校栄養職員（期限付）については栄養士免許証又は栄養教諭普通免許状を有すること。

手続：教職員課市町村立学校係、各教育事務所で配布している志願書に必要な事項を記入し、写真貼付の上、希望する勤務地区を担当する教育事務所に提出してください。

※志願書は福岡県のホームページからダウンロードすることもできます。
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/>

給与：常勤講師は経験に応じて月額19～30万円程度（別途各種手当、社会保険等有）です。非常勤講師は任用形態により異なります。

「問い合わせ先」

福岡県教育庁教職員課市町村立学校係	TEL 092 (643) 38892	TEL 092 (643) 38892
福岡教育事務所	FAX 092 (643) 38896	
北九州教育事務所	TEL 092 (643) 01113	
	FAX 092 (643) 01211	
北筑後教育事務所	TEL 0949 (25) 12002	
	FAX 0949 (24) 33445	
南筑後教育事務所	TEL 0942 (32) 31611	
	FAX 0942 (32) 30440	
筑豊教育事務所	TEL 0942 (53) 73442	
	FAX 0942 (53) 75227	
京築教育事務所	TEL 0948 (25) 11233	
	FAX 0948 (25) 49448	
	TEL 0979 (83) 36006	
	FAX 0979 (83) 36006	

県立学校の臨時教員等登録制度のお知らせ

県立の中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の常勤講師、非常勤講師、養護教諭（期限付）、実習助手（期限付）、寄宿舎指導員（期限付）の希望者の登録を受け付けています。

資格：講師、養護教諭（期限付）については、登録を希望する種別、職種、教科の教育職員免許状を有すること。

手続：教職員課県立学校係で配布している志願書に必要な事項を記入し、写真貼付の上、同様に提出してください。

※志願書は福岡県のホームページからダウンロードすることもできます。
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/>

給与：常勤講師は経験に応じて月額19～30万円程度（別途各種手当、社会保険等有）です。非常勤講師は任用形態により異なります。

「問い合わせ先」

福岡県教育庁教職員課県立学校係	TEL 092 (643) 38893	TEL 092 (643) 38893
FAX 092 (643) 38896		

福岡県体育研究所

令和3年度 福岡県体育・スポーツ研修報告会

日時：令和4年2月10日（木）
 9時30分～16時30分（9時受付開始）

会場：福岡県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）
 主な内容

- 研究成果報告**
- ・福岡県体育研究所長期派遣研修員
 - ・福岡県立スポーツ科学情報センター長期派遣研修員
 - ・福岡県高等学校体育連盟
 - ・福岡県高等学校保健体育研究部会
 - ・福岡県中学校体育連盟
 - ・福岡県中学校保健体育研究会
 - ・福岡県小学校体育研究会

講演会
 演題「走りを極める」
 講師 福岡大学スポーツ科学部 准教授 信岡 沙希重 氏

本研修報告会は、体育・スポーツ関係機関及び団体が一堂に会することで、本県の体育・スポーツの充実・発展のための貴重な機会となっております。
 なお、詳しい内容等につきましては、学校あての文書又は当所ホームページをご覧ください。

「問い合わせ先」

福岡県体育研究所	福岡市博多区東平尾公園二丁目一番四号
TEL 092 (611) 02220	
FAX 092 (611) 17477	
ホームページ http://www.fukuokenkyusho.ed.jp	

九州歴史資料館

企画展「史跡が紡ぐ福岡の歴史～新規国指定史跡～」

内容：近年新しく国史跡に指定された四遺跡を発掘調査により出土した遺物と写真パネルで紹介いたします。今回主に取り上げる史跡は、那珂川市の安德台遺跡（弥生時代）、筑前町の朝倉須恵器窯跡（古墳時代）、粕屋町の阿恵官衙遺跡（飛鳥・奈良時代）、田川市・飯塚市・直方市の筑豊炭田遺跡群（明治・昭和時代）です。

開催日：令和3年11月30日（火）～令和4年3月3日（日）
開催時間：9時30分～16時30分（入館は16：00まで）
休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）
観覧料：無料

パネル展「邪馬台国への道 後編」

内容：『魏志』倭人伝に記された邪馬台国にいたる行程にはいろいろな国があったとされています。その道沿いに所在した国々に関わる遺跡を西谷正名学芸館長撮影の貴重な写真で紹介いたします。

開催日：令和3年10月26日（火）～令和4年3月27日（日）
開催時間：9時30分～16時30分（入館は16：00まで）
休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）
観覧料：無料

福岡県置県150周年記念企画展

「福岡県政150年」第1部 九州の中核をめざして」

内容：明治から終戦直後までの県政の歴史を通して、福岡県が九州の中核として成長していく姿を紹介します。また、福岡共同公文書館（筑紫野市）では戦後の県政を紹介する企画展「福岡県政150年」第2部「アジアのなかの福岡へ」を同時開催しますのであわせてご覧ください。

開催日：令和3年12月18日（土）～令和4年1月23日（日）
開催時間：9時30分～16時30分（入館は16：00まで）
休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）
観覧料：有料、一般210円（150円）
 高大生150円（100円）、中学生以下無料
 ※（ ）内は20名以上の団体料金
 ※障がい者とその介護者1名は無料。
 ※満65歳以上の方は無料。 ※土曜日は高校生も無料。

重要文化財指定記念特集展示「木簡からみた古代の大宰府」

内容：令和元年に国の重要文化財となった「大宰府跡出土木簡」をかつてない規模で一挙公開いたします。遺跡か

ら出土した木簡を通して、九州全域を統轄した古代最大の地方役所「大宰府」の実像に迫ります。

開催日：令和3年12月18日(土)～令和4年2月13日(日)

開催時間：9時30分～16時30分(入館は16時00分まで)

休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)、年末年始(12月28日～1月4日)

観覧料：有料(前頁と同じ)

入館の際は体温測定・マスク着用・手指消毒・連絡票記入にご協力ください。

「問い合わせ先」

九州歴史資料館 学芸調査室 広報普及班
〒838-0106 小都市三沢5208-3
TEL 0942(75)9501
FAX 0942(75)7834
ホームページ <https://kyuteki.jp>

放送大学福岡学習センター

自宅で学べる「放送大学」

— 大学院生・教養学部生 募集 —

放送大学は、BS放送やインターネット(スマホ、タブレット等を含む)を通して学ぶ文部科学省・総務省所管の通信制の大学です。

〔大学院・教養学部〕

・特別支援学校教諭一種免許状や、専修免許状等上位免許状取得に利用できます。

・心理や教育、福祉などの幅広い分野から、大学院は約80科目、教養学部は約300科目を学ぶことができます。

・学生は、自己学習のeラーニングサイト「放送大学自己学習サイト」を利用できます。

〔2022年度第1学期学生募集期間〕

・〔第一回〕令和3年11月26日(金)～令和4年2月28日(月)

・〔第二回〕令和4年3月1日(火)～令和4年3月15日(火)

※各学校には、令和3年3月に「2021年度教員免許状及び各種資格について(放送大学本部作成)」を配布しています。

併せて、「2021年度教員のための放送大学活用の手引(教科・免許編データ版)」を放送大学福岡学習センターにおいて作成しました。いずれも、福岡学習センターのホームページに掲載しておりますのでご利用ください。

「資料請求・問い合わせ先」

放送大学福岡学習センター
〒816-0811 春日市春日公園6-1
(九州大学筑紫キャンパスE棟4・5階)
TEL 092(585)3033
FAX 092(585)3039

サイエンスラボふくおか
福岡県青少年科学館




新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、休館又は各種教室・イベント等を中止・内容等を変更する場合があります。最新の情報は、ホームページでお知らせします。また、スマートフォンやパソコンからの来館予約システムを導入しています。ご来館の際は、ホームページから事前予約をお願いします。

巡回パネル展

■金星探査機あかつき

〔期間〕1月22日(土)～2月13日(日)

〔会場〕1階特別展示室

〔内容〕2010年の金星周回軌道投入の失敗を乗り越え、5年後の再挑戦で軌道投入に成功した日本初の金星探査機「あかつき」。その活躍と金星の最新研究報告をパネル等でご紹介します。企画・制作：宇宙航空研究開発機構(JAXA) 協力：全国科学館連携協議会

星空教室

■『冬の三角』から星座をさがそう！～冬の星座～

〔期間〕①1月22日(土)、②1月29日(土)

〔時間〕10時30分～12時00分

〔対象〕小学生以上(今回は幼児の同席は不可)

〔参加費〕100円

〔定員〕各8組(最大24名)

〔内容〕①12月22日(水)、②1月6日(木) 各9時30分 季節のおもな星や星座のさがし方、星座早見の使い方をわかりやすく紹介します。また、プラネタリウムで星座さがしを体験することができます。

市民天体観望会

①夜空に輝く大きな星「冬のダイヤモンド」を楽しもう。

②冬の1等星と見えた始めた春の星座を楽しもう。

〔期日〕①2月5日(土)、②3月12日(土)

〔時間〕①19時00分～20時00分、②19時30分～20時30分

〔対象〕どなたでも(中学生以下は保護者同伴)

〔参加費〕無料

〔定員〕12組(最大48名)

〔受付開始〕①1月22日(土)、②2月26日(土) 各9時30分
プラネタリウムでの星空解説の後、屋上で天体望遠鏡を使った星の観察を行います。(天候不良時でも、星空解説は行います。)

星と音楽の夕べ
■バレンタインコンサート

〔期日〕2月12日(土)

〔時間〕18時30分～20時00分(18時00分開場)

〔対象〕小学生以上(未就学児の入場はご遠慮ください。小学生は保護者同伴)

〔参加費〕一般620円、児童・生徒310円

〔受付開始〕1月12日(水) 9時30分

〔内容〕「星と音楽の夕べ」では、プラネタリウムで「星空巡り」と「生演奏のコンサート」をお楽しみいただけます。きらめく満天の星の下で、心地よい音楽をゆつくり楽しむ・・・そんな贅沢な時間を味わうことができます。
※定員・出演者については、HPをご確認ください。

科学工作教室

〔期日〕毎週日曜・祝日

〔時間〕①11時00分～12時00分、②14時00分～15時00分

〔会場〕2階実験室

〔対象〕どなたでも

〔参加費〕100円

〔内容〕簡単な科学工作(キューブ万華鏡やアンモナイトレプリカ、浮沈子クレーンゲームなど)を行います。

「問い合わせ先」

福岡県青少年科学館
ホームページ <http://www.science.pref.fukuoka.jp>
TEL 0942(37)5566
FAX 0942(37)3770



このマークのある教室や催しは、来館予約システムとは別に予約が必要です。受付開始日の9時30分から電話または直接来館の上、先着順に受け付けます。ただし、土曜日は高校生以下の入館料は無料です。また、市民天体観望会の入館料はどなたも無料です。

紫草貢進木簡 大宰府跡出土

(重要文化財 九州歴史資料館)



写真1 紫草貢進木簡



写真2 木簡と紫根



写真3 紫草

紫色は古来より高貴な色とされてきました。奈良時代には、役人が身につける衣服の色は決められており、紫色は三位以上の上級貴族しか着用することを許されなかった特別な色でした。その紫色の染料となったのが紫草の根の部分であり、紫根と呼ばれました。紫草は古代において真綿(絹の綿)とならび九州を代表する産物でした。

飛鳥時代から平安時代にかけて、紫草をはじめとした九州の産物は税物として、九州全域を統括していた大宰府に納められました。その証となるのが大宰府跡から出土する荷札木簡です。その中には九州各地から紫草を納める時に付けられた紫草貢進木簡が多く含まれています(写真1)。

その木簡をみれば、紫草がどの地域から大宰府へ納められていたかを確認することができます。大宰府跡出土の木簡に書かれている郡名は、筑前国糟屋・遠賀(岡賀)・怡土・嘉麻(加麻)郡や肥後国合志・山鹿郡、豊後国海部郡であり、現在の福岡・熊本・大分県にあたる広い地域から紫草が大宰府へ集められていたことがわかります。木簡には「廿(二十)根」と書かれたものがあり、紫草が紫根の状態で運ばれていたことを示します(写真2)。

紫草は白い花を咲かせる多年草で、その栽培は今も難しいとされています(写真3)。古代においては郡ごとに紫草園があり、郡司の管理の下で十七歳から二十歳までの青年たちが労働力を提供して紫草の栽培を行っていました。その栽培にあたっては、国司が種蒔き・生育・収穫の確認のために三回訪れ、その内の一回には大宰府の官人も立ち会いました。紫草がいかに重要な産物であったかがうかがえます。

紫草やそれを原料とした染織品は、さらに都に納められました。平城京跡からはそれを物語る紫草貢進木簡が出土しています。

紫草貢進木簡を含む大宰府跡出土木簡は、令和三年十二月十八日(土)〜令和四年二月十三日(日)開催の九州歴史資料館特集展示「木簡からみた古代の大宰府」において展示されます。